

戦国武将、武田信玄も負け戦をしています。

その時から武田信玄は偉大なリーダーに変わっていったのです。

信濃制圧を開始した武田晴信は、上田原で北信濃の知将、村上義清と激突します。

しかし、この戦いが晴信にとって初めての負け戦となり

板垣、甘利といふ武田軍の両雄を失い惨敗してしまうんですね。

特に、板垣は晴信の守り役だったので、晴信のショックは大変大きかったのです・・・

負け戦を認めたくない晴信は、なかなか陣の構えを崩そうとしない。

生母大井夫人からの「潔く負けを認めよ」といふ手紙にようやく甲斐に引き上げるのです。

帰陣し、心痛める晴信を大井夫人がこんこんと諭す場面が印象的なのです。

お前は、主君として何を治めてきたか・・・

戦をもって他国を脅かすことが国を治めることか？

そうではなからう・・・

国のために利を求めることも大事だが

人をいつくしむ心がなければ、その利によって国が滅ぶであろう・・・」

大井夫人の言葉は胸にズシーンと響いてきます。

そして、こう結ぶのです。

「今一度、おのれの道を見つめ直さねばならない。

人々は、強い晴信を信じるのではない。

そなたが信じるものを信じたいのです」

戦国武将や軍隊の指揮官への信頼度は、

「この人について行けば、死ぬことは無い」と極めてシンプルであった。

現代の企業のリーダーに対しては、この人と共に歩めば自らが成長出来き、成功を共に味わうことが出来るという期待感である。

<経営のヒント>

リーダーの学びは戦国武将から学ぶことが多いです。

部下は自分の命を、このリーダーに掛けるのです！

あの当時の主従関係は、お互いの信頼関係がベースです。

絶大な信頼なければ、簡単に裏切れることは当たり前の時代です。

信頼するとは、どういうことか？・・・深く考える必要があります。

リーダーの信じている価値観を、部下が心から信じられるかどうか問われているのです。

その為には、リーダーは自分の信じている価値観を語らなければならないのです！